



War Cry

4月号

福音版
2025
April
No.2886

二〇二五年 四月一日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行 広報版・奇数月十五日発行

GOOD NEWS
と きの こ え「ありがとう」と
「ごめんなさい」

石川 里志

私の自宅には、いくつかの日めくりカレンダーがあります。一日一語、指針を与えてくれる言葉と向き合うことはとてもいいものです。

その中の一つに「あなたを倅せにする魔法の言葉」というものがあります。それは「ありがとう」と「ごめんなさい」というものでした。

人とのコミュニケーションをとる上で挨拶は欠かせません。家庭でも職場でも「お早うございます」や「お疲れ様」は日常語です。でも、そこに親しみや相手を思いやる気持ちが込められていなければ、良い関係は保てません。人間関係がうまくいかないことはほど私たちを苦しめるものはありません。

「ありがとう」という言葉は、自分に良くしてくれた方に対して表す感謝の言葉です。一方、「ごめんなさい」は、迷惑をかけてしまった方に申し訳ない気持ちを表す言葉です。しかし、気恥ずかしかったり、高慢であつたりして、それがなかなか言えないのが私たちの感情ではないでしょうか。

聖書の詩編三三編五節にこう書かれています。

「わたしは罪をあなたに示し
咎を隠しませんでした。
わたしは言いました
『主にわたしの背きを告白しよう』と。」

そのとき、あなたはわたしの罪と過ちを赦してくださいました。」

私たちが心から「ありがとう」と言わなければならない方がいます。その方は私たちの命を創造された方です。私たちはその方に背を向けて生きてきました。しかし、そのような生き方に平安がないことに気がつきます。日々の恵みに感謝することなく、また過ちを悔い改めることのない生活には真の幸いはありません。

その方は神です。私たちを心から愛してくださいました。その愛は、私たちに平安を与えるものです。神は私たちがご自分に立ち返ることを望んでおられます。背を向ける私たちの過ち、その罪を赦すために、神は御子イエス・キリストを世に与えてくださいました。私たちの罪を贖うために、キリストは十字架で血潮を流されたのです。私たちは自分の罪に気づき、神の前に心から悔い改めて神様に

「ごめんなさい」と言い表すことが必要です。神様は私たちの悔い改めを喜ばれます。そして、私たちが感謝をもって生きることを望んでおられます。

「いかに幸いなことでしょ
う
背きを赦され、罪を覆っていた
いたた者は。
いかに幸いなことでしょ
う」

主に咎を数えられず、心に欺きのない人は。」
(詩編32編1、2節)

幸いな人生は、自分の罪を言い表し、悔い改め、日々神様からいただく恵みに感謝をもって生きることです。赦され、愛されることで私たちに真の平安が与えられます。

私たちはイエス様の十字架を忘れてはなりません。「ありがとうございます」として「ごめんなさい」と、神様に自分の気持ちを心から言い表しましょう。

(救世軍上野小隊(教会)所属)





どんな時も神様の声を聞きながら

佐藤 るり 瑠さん
(救世軍清瀬小隊所属)

日曜学校の頃

新年度を迎え、学校や職場で新しいスタートを切る季節です。進路の選択や、どう生きるかは、青年のみならず多くの人が直面する課題です。いろいろな方法を通して、神様が繋ぎ止めていてくださったという佐藤さんの信仰の証言です。

私が五歳くらいの頃、母が祖母の介護をしており、母に付いて祖母の家へ行くのが週末の過ごし方でした。祖母は元救世軍清瀬病院の看護師長でした。そのため、祖母が「聖別会（日曜礼拝）に行きたい」ということで、祖母と母と私と三人で清瀬小隊（教会にあたる）に行ったことが、救世軍との出会いでした。そのまま自然と毎週日曜学校に通うようになりました。母はクリスチャンではありませんが、教育にいいからという理由で日曜学校に通わせていた、と最近になって聞きました。小学生の頃は聖書の学びより、日曜学校に来ていたお兄ちゃんお姉ちゃんたちと遊ぶことが楽しく通っていました。

それでも小学六年生になると、「日曜はお昼まで寝たい。学校の友達と遊びたい」と思うようになりました。どうやって日曜学校を休むかを毎週のように考えていました。しかし母は、毎週日曜は絶対に八時に私を起こし、九時までに家を出るように急かしていました。そんな母の言動に、当時はとてもイライラしていました。何度か、公園で時間をつぶして日曜学校に行つたことにして、家に帰つた日もありました。いわゆる反抗期です。それでもなぜか休み続けることはできず、ほとんど毎週通っていました。

振り返って考えると、母は子育ての一環として日曜学校に通わせていただけかもしれないですが、神様が母を使って反抗期の私を神様から離れないようにしてくださっていて、私自身も無意識のうちに神様から離れない道を選んでいたのであります。

神様が繋ぎとめてくださった

小学生の時は神様のことを漠然と捉えており、自分

の中では小さなものだった。しかし中学生になり、人間関係が大きく変わりました。反抗期も続いていたため、日曜学校だけでなく「中学校にも行きたくない、勉強もしたくない。とにかく何もしたくない、全部つまらない」と、何もかも嫌になつてしまっていました。そんな中学一年の夏、私はWEST（旧ジャニーズに所属している関西出身の七人組アイドル）に出会いました。何歳も年上の彼らが全力でふざけて笑い合っている姿に惹かれました。それから学校が楽しくなり、日曜学校にも自分から積極的に通うようになりました。WESTを推すようになってからは、性格も今のように明るく前向きになりました。あの時WESTに出会ってなければ今の私は絶対にいないと思います。

そして中学二年に上がる直前のユース・セミナー（救世軍の青年のための集会）で私の将来の夢が決まりました。その年は、清瀬小隊が会場で、恵泉ホーム（東京・清瀬市にある救世軍の特別養護老人ホーム）などの施設の見学をするというプログラムが組まれていました。そこで車

椅子体験をして車椅子を押している時に「あ、私将来この仕事してる！」と思いました。そしてその日の分かれ合いの時間に、このことを皆の前で話しました。そのくらい強く確信したのです。でもこの時はまだこの強い確信が神様の声だとは気づいていませんでした。



い方法、人を使うこともあ
る」というものでした。この
説教を聞き、まさに神様は
私に対して、「WES」を使っ
て、神様から離れ、真っ当
な道すら外れようとしてい
たところを繋ぎ止めてくだ
さったと気づきました。こ
のことを機に私は救世軍兵
士（信徒）になり、神様と共
に人生を歩んでいきたいと
思うようになりました。

そして心からクリスチャ
ンとなった時、車椅子を押
していた時の「将来この仕
事してる！」という強い確
信は「将来この仕事をする
んだよ」という神様の声だ
と気づきました。そのまま
ブレることなく看護師を目
指して高校、大学と進学し、
現在看護師として働いてい
ます。

看護師として

学生の頃は看護師になる
ことがゴールだったため、
すんなりと進学先を決める
ことができました。しか



左：仲の良い友人と
右：推しのコンサートで



し、就職先となると、都内
だけでも病院がたくさんあ
り、決めかねていました。で
きればキリスト教の病院が
いいなと思い、調べてもビ
ジッとくる病院はありません
でした。反抗期は大学を
卒業するまで続けていたた
め、実家から出ることで
は決めており、社宅のある
実家からは通いにくい距離
の病院に絞って探しました。
実習先や求人サイトに出て
きた所など病院見学にもい
くつか参加しました。それ
でも高校、大学を選んだ時
のようにビビッとくる病院
はありませんでした。そこ
で神様に「私に計画してる
病院があるならここ！つ
て大きな声で言ってください
い」とお祈りしました。

そんな中、大学の先生
に何気なく「私に合いそう
な病院ないですかね」と
聞いて名前が上がったの
が、現在働いている東京衛
生アドベンチスト病院でし
た。この病院、実は高校生
の時に東京都の一日看護体
験で行った病院でした。高
校生の頃は、産科が有名な
病院という好奇心だけで選
んでいたため、全く記憶に
残っておらず、先生に紹介
されてやっと思い出しまし
た。病院の理念が「心と身
体の癒しのためにキリスト
の心でひとりひとりに仕え
ます」で、私の座右の銘に
しているほど好きな聖書箇
所「隣人を自分のように愛
しなさい」（ルカによる福音書
10章27節）とも看護観が一致
することもあり、運命のよ
うなものを感じ、病院見学
に行く前からとても気に入
っていました。そして病院
見学に行った時、神様はは
つきりと私に「この病院だ
よ！」と大きな声で教えて
くださいました。

それまでは、進学しても
知り合いが数人おり、人間
関係に困った経験がありま
せんでした。けれども、この
病院には知り合いが一人も
いません。そういう所へ行
くのは初めてで不安でいっ
ぱいでした。しかし、神様
は必要なものは備えてく
ださる方です。

まず就職前の社宅の内見
の日に一人の同期と出会う
せてくれました。その子も
クリスチャンで、なんと誕
生日も全く同じ。私たち以
外の同期は付属の大学から
来る人たちのみで、知り合
いがいないという境遇も同
じ。さらに隣の部屋という
こともあり、すぐに仲良く
なりました。お互いの部屋
を行き来したり、休みの日
は遊びに行ったりするほど、
同期の中では一番仲がいい
です。また、他の同期も大
学が違うのに仲間外れにせ
ず、初日から仲良くしてく
れました。特に同じ病棟の
同期とは、お互いに最近
あったことを報告し励まし
合い、シフトが同じだけな
のに、それが仕事に行く理
由になるくらい心の支えに
なっています。同期だけで
なく、先輩方も皆さん優し
く指導してくださり、私も
職場でちよつとした冗談が
言えるほど打ち解け、受け
入れていただいています。

これからも神様と 一緒に

今回『ときのこえ』の証
言の依頼を受け、神様と共
に歩んできた二十三年間を
振り返ることができました。
私は神様から与えられた賜
物として芯の強さがあると
考えています。誰しも一度
は「神様なんて本当にいる
の？」と疑ってしまったこ

とがあると思います。しか
し私はそう思ったことが一
度もなく、純粹に「え、神
様はずっと私と一緒にいる
じゃん」と疑うことなく生
きてきました。それだけ今
までの人生が恵まれていた
ということもあるとは思
います。でもそれだけでは説
明がつかないほどに、どん
な時も神様は一緒にいてく
ださるという確信をもって
います。

しかしこの確信に甘えて、
聖書を読まなかったりお祈
りをしなかったりと、神様
との会話の時間を十分にも
たずに生活してしまうこと
もあります。さらに看護師
は日曜日仕事があるため、
聖別会に行くことができな
い週も多いです。社会人に
なり、強い確信のおかげで
心は神様から離れることは
ないけれど、物理的に神様
との距離ができてしまっ
ていると感じています。



世界をみつめて

〈ウクライナ〉侵攻から 3 年

2022 年 2 月にロシアによるウクライナへの大規模な侵攻が始まり、3 年が経過しました。ウクライナでは 690 万人以上の人々が難民として国外に逃れ、国内では約 370 万人が故郷を離れて避難をし、1,200 万人以上が人道支援を必要としていると推定されています（2025 年 2 月時点）。戦闘の長期化により、人々にはうつ病、PTSD（心的外傷後ストレス障害）、パニック発作、不眠症、自尊心の低下、以前は楽しかった活動に喜びを見いだせないこと、将来への不安や恐怖など、深刻なメンタルヘルスの問題が生じています。ウクライナの救世軍は、人々の精神的、身体的、社会的な健康をサポートするための活動を続けています。

ドニプロの小隊（教会にあたる）では、女性のためのプログラムを実施しています。聖書の学びや、料理、アートセラピーやスポーツなどを通して穏やかな時間をもち、また、参加者が互いの経験を語り合い、ス

トレスに対処する機会となっています。これらのプログラムは人とのつながりを生み、孤立を防ぎます。また、子どもたちが安全に過ごすことのできる放課後クラブやスカウト活動、音楽クラスなどもウクライナ各地で実施しています。

2 月 24 日には世界の救世軍のリーダーであるリンドン・バッキンガム大將が、戦禍の中にある人々の平安を祈り、各国の指導者たちへ平和の実現を呼びかける談話を述べました。



イースター（復活祭）とは

今年のイースターは 4 月 20 日（日）です



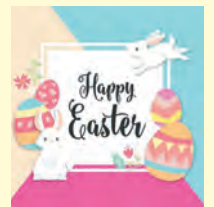
十字架にかかって死なれた主イエスが、三日目に復活された——このことを祝い、記念するのがイースター（復活祭）です。聖書は、神の独り子である主イエス・キリストが、何の罪も犯されなかったにもかかわらず、人間のすべての罪を背負い、身代わりとなって十字架にかかられたこと、墓に葬られたこと、しかし、三日目に復活されたこと、弟子たちの前に姿を現され、十字架に釘付けられた傷痕の残る手を広げ、見ないで信じる者は幸いであると言われたことを伝えています。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」（聖書 ヨハネによる福音書 3 章 16 節）

キリストは罪と死に打ち勝ち、復活されました。それは、人間に対する神の深い愛によってなされた、救いの御業です。キリストを救い主と信じる者は、罪赦され、神の子とされて生きる、永遠の命を受けるのです。

最近ではこの季節になると日本でも、テーマパークなどでイベントが開催されたり、卵やウサギのデコレーションが飾られ、春の訪れとも相まって、明るい喜びの雰囲気を感じます。そのイースターの喜びの中心は、「キリストは復活された！」という知らせなのです。

イースターは「春分の日の後の、最初の満月の直後の日曜日」で、毎年日付が変わる移動祝日です。今年のイースターは 4 月 20 日（日）です。



救世軍とは？



救世軍は、世界 134 の国で活動するプロテスタントのキリスト教会で、国際本部は英国ロンドンにあります。1865 年、英国のメソジスト教会の牧師ウィリアム・ブースと妻カサリンによって始められ、東ロンドンのスラム街で困難な生活状況にある人々に助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えてきました。日本では、1895（明治 28）年に英国から士官（伝道者）が派遣されて活動が始まりました。今年で 130 周年を迎えます。各地で小隊（教会にあたる）、病院、社会福祉施設（児童養護、高齢者支援、女性自立支援、アルコール依存症者回復支援）などを通して、神と人々を愛し仕える働きを進めています。

☆『キッズ・ゴスペル』コーナー☆ （子ども向け紙面）



左の QR コードから、今月の『キッズ・ゴスペル』を閲覧できます！
聖書のお話も動画で見られます。ぜひ、ご覧ください！

救世軍公報 ときのこえ

発行日 福音版 / 毎月 1 日、広報版 / 奇数月 15 日
定 価 福音版 / 1 部 40 円、広報版 / 1 部 100 円
（税込）クリスマス特集号（12 月 1 日号）/ 1 部 100 円
振 替 00180 - 5 - 4400
発行兼 救 世 軍
印刷人 代表者 スティーブン・モーリス
編集人 山谷 真
発行所 救世軍本営 <https://www.salvationarmy.or.jp>
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-17
電話 03-3237-0881（代表）
Mail jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org
印刷所 ピーアンドエス



聖書は新共同訳を使用しています © 共同訳聖書実行委員会 © 日本聖書協会 救世軍は、旧統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、下記救世軍にご相談ください。

【取り扱い支部】

救世軍への連絡をご希望の方は、以下の項目及び住所氏名をご記入の上、救世軍本営（左記）、もしくは、上記救世軍にご連絡ください。
・私の近くの救世軍を紹介してください。 ・キリスト教についてもっと知りたいです。
・『ときのこえ』の購読を申し込みます。 ・相談を希望します。